

京都教育大学 F D ニュース

No. 51

2010 年 1 月 7 日

F D (ファカルティ・ディベロップメント) 委員会

H21 年度 F D 研修会 (第 1 回) を振り返って

12 月 16 日 (水) 13 時より平成 21 年度第 1 回の F D 研修会を開催しました。大学教育改善および教員研修の一環として、本学大会議室にて開催し、44 名の教職員にご参加いただきました。授業アンケートにより、ユニークな授業をされ、また評価の高かった担当教員を、F D 委員会で選考し講演をお願いいたしました。講演の先生方に授業の様子を紹介していただき、われわれの授業改善につなげていくとの目的で実施いたしました。以下に講師のご講演をまとめ、報告とさせていただきます。

村上忠幸教授 (理学科) からは「おや、不思議だ、なぜだろう ー 探究的な理科学習を実現するためにー」、そして高乗秀明教授 (附属教育実践総合センター) からは「学生の意欲と満足度を高める授業づくりー 教職科目での実践を通じてー」というテーマで、質疑も含め各 40 分のお話をいただきました。

村上忠幸先生は、今までの F D 研修会を通して自分自身が学ばれたことの紹介から始まり、探究学習の実現に向けて、導入理由、うまくいかない場合の理由などについて、多くの実践例を交えて具体的な話がありました。探究することの楽しさを伝える授業の展開には、並々ならぬ努力を払われることがよくわかる講演でした。参加者からの感想には「興味・関心をもたせる課題と誘導の大切さを感じた」、「試行錯誤をとおして、不思議さの原因を追及することが学習効果を高めることになるのがわかった」、「理科におけるコミュニケーションの大切さは、新学習指導要領にも通じる重要な点である」などがありました。

高乗秀明先生は、担当されている教職科目 (特別活動) の実践内容、進め方、学生とのやりとりの様子を中心に、受講生の満足度を高めるための授業の工夫について、紹介されました。満足度とは何か、それを高めるための必要条件としての内容の充実、さらに十分条件を満たす “方法” についても言及されました。1 回目の講義の大切さ、グループワークと講義の併用、自分自身の教育体験を振り返ることの大切さ、授業時間内にも学生に時間を与えることなどを指摘されました。参加者からの感想には「顧客満足度の考え方は参考になった」、「多様な授業スタイル、計算された授業、全体構成の大切さを感じた」、「大人数の授業の工夫も参考になった」などがありました。

お忙しい中、有意義なお話をしてくださりました村上忠幸先生と高乗秀明先生にお礼を申し上げます。第 2 回 F D 研修会にもさらに多くの先生方に参加していただき、実りある研修会にしたいと願っております。今後ともご協力をお願いいたします。

今後のFD研修会について（案内）

第2回FD研修会

1月20日（水）13時～14時20分 大会議室（事務棟3階）

講師：神藤 貴昭 准教授（立命館大学 経済学部）

「FDをどう考えるか ―教員養成課程のFDに向けて―」

第15回FDフォーラム（主催：大学コンソーシアム京都）

学生の学びを支える ―つなぐFDの展開―

日時：2010年3月6日（土）13:00～、7日（日）10:00～

場所：同志社大学 今出川校地

プログラム等が掲載されたホームページアドレスを以下に示します。申し込み(2/3まで)もできます。

http://www.consortium.or.jp/contents_detail.php?co=new&frmId=1513

情報交換会を除く参加費（加盟大学分3000円）は、領収書を教務課に提出いただければ、立替払の請求手続きを行います。（後日旅費支払口座に振り込まれます。）

FD研修会に関する問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いします。

FD委員会委員：岡本（委員長）、泉（副委員長）、和田、水谷、芝原